

## いじめ・不登校の未然防止に資するPDCAサイクルの進め方

—「魅力ある学校づくり調査研究事業」より—

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官 中野 澄

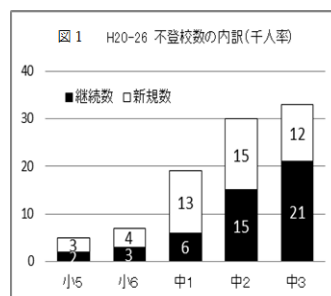
### I 研究のねらい

「魅力ある学校づくり調査研究事業」は、中学校区を単位に 不登校・いじめの「未然防止」に焦点化した取組とその効果 をねらいとして、平成22年度から実施してきたものである。第Ⅲ期となる平成26年度～27年度は、18府県18市町（2政令市を含む）の18中学校区（18中学校・58小学校）で取り組んだ。

### II 研究の内容

本研究では、不登校者数を新規数（前年度不登校でなかった者）と継続数（前年度不登校であった者）に区別してその推移を追うと、新規数は中1～中3までほとんど変わらない（図1）ことに着目し、新規数を抑制する取組を行った。

具体的には、①全児童生徒を対象とした意識調査を実施し学年や学級の状況を把握、②その実態から課題を分析、課題克服のための目標を設定、③目標達成に向けた年間取組計画の策定、④全教職員で取組を実行、⑤再び意識調査を行い、これまでの取組が効果を上げているかを点検し、その後の取組を見直して実行。この①～④のサイクルを、全教職員が参加して年3回2年間行った（図2）。



### III 研究の成果と課題

指定地域全体では、本研究開始前の平成25年度末と比較して、不登校生徒数は約30%減少した（全国は微増傾向）。個別にみると、研究開始前に不登校生徒数の割合が全国平均を上回っていた13校のうち7校で全国平均を下回り、残り6校も不登校生徒数は減少した。また、多くの中学校区で、いじめの加害や被害経験にも顕著な改善が見られた。サイクルによる取組は、いじめ・不登校の未然防止につながる事が確認された。

取組内容をまとめた報告書では、「魅力ある学校づくり」の視点、手順、成果について、次の5つにまとめている。①不登校数を減らすには新たな不登校を抑制する「未然防止」の取組が必要不可欠。②あらゆる教育活動で「居場所づくり」と「絆づくり」に取り組む。③未然防止のための生徒指導のPDCAサイクルとは？④なぜ、サイクルを3回繰り返すのか。何が、なぜ、変わるのか。⑤PDCA×3はいじめの取組としても効果的。

今後、研究成果を広めるために、次のメッセージを各教育委員会・学校にどのように伝えていくかが課題である。

- (1) 評価の高いプログラムであっても、導入しただけで効果が上がるわけではない。これまで学校で大切にしてきた取組を、計画的・継続的に点検・見直しするだけで大きな効果がある。
- (2) データ結果に一喜一憂せず、データに基づいて学年全教員で点検・見直しを行うことが、より多くの児童生徒に届く取組につながる。